

平成19年度 第2回 研究関連・管理部門等活動評価委員会議事要旨

1. 日時: 平成20年4月14日(月)10:00~14:35
2. 場所: 産業技術総合研究所 秋葉原事業所 大会議室
3. 委員: 小野委員長、中島副委員長、古賀副委員長、伊藤委員、村瀬委員、水野委員、一條委員
4. オブザーバ: 山本(業務推進本部)、谷川原(イノベーション推進室)
5. 事務局(評価部): 中村(修)、大井、中村(治)、小野瀬、国松、大野、鈴木、山本、菊池、間野

6. 議題:
 - (1) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価結果報告について
 - (2) 平成19年度モニタリング結果報告について
 - (3) 平成19年度研究関連・管理部門等活動の総合評価と評価結果の活かし方(案)について

7. 資料:
 - (資料1) 平成19年度第2回及び平成20年度第1回研究関連・管理部門等活動評価委員会議事次第
 - (資料2) 平成19年度第2回研究関連・管理部門等活動評価委員会出席者
 - (資料3) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価委員会委員名簿
 - (資料4) 研究関連・管理部門等活動評価委員会要領
 - (資料5-1) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価の基本的考え方及び実施方法
 - (資料5-2) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価の基本的考え方及び実施方法(PPT)
 - (資料6) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価結果の概要(案)
 - (資料7-1) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価の主な結果(研究関連系)
 - (資料7-2) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価の主な結果(管理系)
 - (資料8-1) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価資料(研究関連系)
 - (資料8-2) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価資料(管理系)
 - (資料9-1) 産総研・特記センターの活動に関するインタビュー結果(案)
 - (資料9-2) 産総研・地域センターの活動に関するインタビュー結果(案)
 - (資料10) 平成19年度研究関連・管理部門等活動の総合評価と評価結果の活かし方(案)

8. 議事概要:
 - (1) 平成19年度研究関連・管理部門等活動評価結果報告
分科会長より資料7-1及び資料7-2に基づき、平成19年度研究関連・管理部門等活動評価の主な結果について報告が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり

- ・効率性、計画性、戦略性を見る時に、数値目標を適正に設定することで、より良い運営、より良い評価が可能になると考える。数値目標の設定が適切でない部分においては、フローの提示等を望む。
- ・効率化については、基本的に人員削減よりサービス向上による効率化と捉えるべき。
- ・知財に関してかなり前進している印象。研究所にとって成果としての知財は重要である。そのため、重要な知財について経営層に説明し、理解してもらう必要がある。
- ・多すぎる年間目標では焦点が合わない。重要目標を絞って部門内に徹底し、所員の意識の徹底を図ると良い。

(2)平成19年度モニタリング結果報告

事務局より資料9-1及び資料9-2に基づき、平成19年度地域センター及び特記センターの活動に関するインタビュー結果(案)について説明を行い、審議、了承された。委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・実際のステークホルダーからの意見として、代表性は欠けるかもしれないが、生の声としては代え難い貴重な意見である。
- ・地域によって濃淡があるので、取りまとめた概要以外にも各地域におけるモニタリング結果を個別に知りたい。

(3)平成19年度研究関連・管理部門等活動の総合評価

事務局より資料10に基づき、平成19年度研究関連・管理部門等活動の総合評価(案)について説明を行い、審議、了承された。委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・今回のベストプラクティスについても他部門と協力して実施した事例がある。それを併記すれば、よりエンカレッジされるのではないか。
- ・ベストプラクティスを他部門へ応用展開するためには、参考にしやすいように、もう少し噛み砕いて記述する必要がある。
- ・産総研の理念やミッションを組織全体に浸透させる必要がある。それをベースに、組織全体が一つの方向に進むようにすべきである。
- ・産総研は研究の幅が広い。マネジメントレベルでどのようにリソースを配分しているかを把握する必要がある。
- ・一体感の醸成のためには、部門長レベルでの膝をつき合わせたコミュニケーションの緊密化と人のローテーションが必要である。